



松前町 議会だより

JR 北伊予駅自由通路 及び 周辺整備事業

調査特別委員会 ニュース No.1 (9/1 発行)

北伊予駅自由通路(高架橋)
1.5億円から**4.04億円**に なぜ?!
(JR・県・町で、くい違い多し)

第2回委員会での

理事者との議論の中より

去る7月23日、臨時議
会を開催した。2議員除
斥での特別委員会可決と
いう異例のスタートでは
あったが、成立した限り
は自由通路建設実施に向
けて懸念事項を払拭し、
委員会として納得できる
結論を出していきたい。

町道認定時に出された
理事者側の1億5千万円
の概算額が、設計費や用
地取得費なども含めると
4億円以上の金額となっ
ていた。この開きをどう
埋めていくのか、地域の
要望には応えたいし、ま
さに正念場だ。

特別委員会は、議員全
員がメンバーで正副委員
長を、澤田、八束の両氏
に決めた。既に委員会を
3回開催した。

町道認定時に出された
理事者側の1億5千万円
の概算額が、設計費や用
地取得費なども含めると
4億円以上の金額となっ
ていた。この開きをどう
埋めていくのか、地域の
要望には応えたいし、ま
さに正念場だ。

決定事項

- ① 委員会の報告会の実施
- ② 委員会ニュースを号外版で発行
- ③ 関係地域住民に対するアンケート
- ④ 委員による任意の聞き取り調査
- ⑤ 自由通路を通路路にする場合の交通
安全協会、PTAへの聞き取り

今後の予定

- ① 県への聞き取り調査
- ② 理事者の今後の対応策の確認

問 地元の要望は西から
利用したいということ
では。

町長 地元要望は平成
18年に出しているが、
その後状況変化もあり
東西を結ぶ自由通路と
なった。
(議会に報告なし)

問 当初、県の主体工事
では、町は地元要望の
窓口だが、西入口が自
由通路に変わった訳は。

町長 JRの移転に伴う関
連事業は地域が主体と
いうのが基本。東西を
自由に行き来できるほ
うが便利なので県に要
望し、認められた。
(県事業の対象外のた
め町が事業主体となっ
た。自由通路にしない
と補助の対象にならな
い。)

問 西口通路から自由通
路に変わった際、議会
への報告はなく、新設
する事になった経緯は。

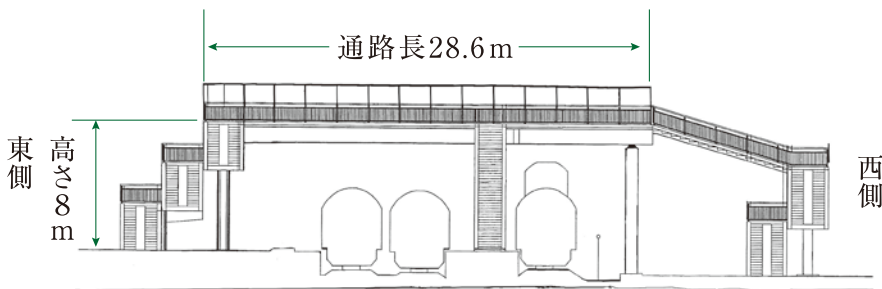
担当部長 西口について
は平成22年に県が経費
を安くするため既存の
橋につなぐことを検討
していた。町としては
駅に降りるだけの橋は
東西を結ぶことになら
ないし、耐震性も考え
国の補助が頂きやすい
新設を考えた。

問 1億5千万円の積算
の3倍近くになった自
由通路は、町道認定し
ても納得いかないが。

町長 JR四国主体でやる
以上自由通路そのもの
は2億8千万円である。
それでも1億3千万円
の開きがあり人件費や
物価の高騰、また信号、
保線など付随費用もあ
り、金額が上がった。
今後我々が努力するこ
とは、この開きを縮め
ることだ。

(当初総額で1億5千
万円と聞いている。設
計費や用地買収費など

で増加するのでは、説
明不足。引き続き内容
を精査する。)



JR北伊予駅自由通路一般図

北伊予自由通路(高架橋) 事業経過

平成26年8月18日現在

- 18年3月30日 **松前町から県へ北伊予駅西口要望書提出**
- 24年3月 北伊予駅西口歩道橋(設計費) (500万円)
- 24年6月8日 **事業主体が県から松前町に** (議会に報告なし)
- 25年6月議会 北伊予自由通路(詳細設計費) 議会上程 (2,200万円)
- 25年7月5日 JR四国宛て**(松前町が全額費用負担で自由通路を作る要望書提出)** (議会に報告なし)
- 25年7月24日 JR四国より町長宛て**(維持補修含め全額町負担であれば)** 基本了承する (議会に報告なし)
- 25年9月17日 産業建設常任委員会で詳細説明不足のため道路認定否決 (継続審議とした)
- 25年9月25日 本議会最終日 委員長継続審議報告の後、本会議で異例の可決 (町道認定)
(この時の自由通路の総額費用は1.5億円と説明)
(経過説明 議事録など書類関係は所在不明のため説明提示できない答弁)
- 26年3月31日 JR四国にて詳細設計完了 (議会に報告なし)
- 26年5月22日 JR四国からFAXで**3.5億円**の見積書提示**(理事者公式見積書と答弁)**
- 26年6月議会 全員協議会にて北伊予駅自由通路の説明あり 総額費用が**4.04億**の説明 (質疑応答・詳細説明なし わからない・資料がない・議事録ないと答弁)
- 26年6月18日 JR四国高松本社へ議員6名で出向き事情説明後質疑応答 (記録あり)
(事業費の総金額は算出中。松前町へ提示はしていないとの答弁)
- 26年6月19日 県庁土木部へ議員6名で出向き事情説明後質疑応答 (記録あり)
(県の事業対象にはならないが町が主体とするには構わない) (記録あり)
- 26年7月23日 議会本会議で北伊予駅自由通路調査特別委員会設置
- 26年8月1・4・8日 調査特別委員会実施 不明な点も有り引き続き調査中

委員コメント

●寺下 武 委員
今回の事業は、今後もJR、県と協議を行って頂きたい。また議会側も情報を発信、吸収し結論を導くべく努力する。

●加藤博徳 委員
議会が何のために、誰のためにあるのか、問われる事案だ。自分自身でしっかり検証し判断したい。

●稲田輝宏 委員
9人の区長と老人会長、両方のPTA会長が連名の要望書が出ている。校区の総意と受けとめるべきだ。

●稲田 孔 委員
JR北伊予駅の高架橋は県事業なのに町事業で4.04億円に膨れ、費用対効果はどれだけのものか、しっかり調査が必要だ。

●松本一二美 委員
西からのJR進入路は長年の地元要望。東西を結ぶ陸橋道は地域発展にも好影響。国の支援可能な好機に実施を!

●早瀬武臣 委員
コメントしない。

●村井慶太郎 委員
1億5千万円の予算が、議会毎に金額が4回の変更、6月議会では4億4千万円となった。案件は納得できませ

●藤岡 緑 委員
東西を結ぶこの陸橋が地域活性化につながり、後に「作ってよかった、高架橋」となることを願います。

●八束 正 委員
地域の思いを真摯に受け止め、JR北伊予駅自由通路について最良の決断をしたい。

●木下 淳 委員
県が最小限の整備費用で計画していたが、町と地元委員会の意向で変更となった経緯を調査すべきである。

●三好勝利 委員
議会として真実を追求していきたい。

●伊賀上明治 委員
なし。

●岡井慶一郎 委員
JR北伊予駅自由通路及び周辺整備は実施すること大いに賛成する。駅周辺の発展促進に必要な施設である。

●澤田登代一 委員
一人でも多くの人が、少しでも理解し納得ができる、施設にしたい。